



サンドイッチ屋 経営者  
美濃加茂市在住  
渡邊 久子さん

長年地元の皆さんにご利用いただいているサンドイッチ店「朝日屋」を営んでいます。創業は市制施行より1年長い1953年。パンやお総菜は、市内の高校の売店でも販売しているの、現役の学生はもちろん、地域で暮らす卒業生たちからも「売店のおばちゃん」と、よく声を掛けてもらえます。

今はお店も少なくなつてしまつて、寂しい気持ちがありますが、数十年前には、この古井街道は地域では「平和通り」とも呼ばれており、酒屋、薬局、八百屋、時計屋などのお店が隙間なくたくさん並んでいました。ここに嫁いできた時、「生活に必要なお店が揃っている」とワクワクしたことを覚えてます。

時代の変化とともにお店が減り、住宅やアパートが増えて

きました。当時通り沿いにあった広場では、子どもたちが学校帰りに集まつて遊んでいる声が常に聞こえており、こうした何気ない光景もまぢの賑わいだつたんだと今になって感じるようになってきました。

当時と比べると子どもたちの数も少なくなりましたが、この平和通りを小学生在が元気よく登下校する姿や、高校生が汗を流しながら遅刻しないよ



うに必死で自転車をこぐ姿、子どもたちの安全を守るために地域の皆さんが見守る姿が見られるこの古井街道は、自分のお店があるからというだけでなく、私にとつてもその時々々の価値を見せてくれる場所だと思つています。

## No. 04

### 古井街道と呼ばれる 神明森山線



ダボ・リージョン  
(オーストラリア在住)  
足立 有希さん

美濃加茂高校1年生の時に派遣生として渡豪。姉妹都市交流を通じて現地で出会った夫との結婚を機に、夫のまちでもあるダボ(シドニーの北西約400kmに位置する地方都市)へと移住し、どちらのまちも私の大切な故郷となりました。現在は両市をつなぐ姉妹都市交流のお手伝いをしています。

ダボには、二〇二二年に美濃加茂市から寄贈された日本庭園「逍遥園」があり、人々の憩いの場として親しまれています。また、この場所に限らず、ダボの人たちの美濃加茂に対する愛情は大きく、私がこの地に渡り、今日まで暮らしてこれたのも、こうした皆さんの「美濃加茂愛」が大きいと感じています。

ダボロードが整備された同時期、ダボにも「美濃加茂WAY」という新たな道が作られました。「ダボロード」と「美濃加茂WAY」。この二つの道が両市の友好関係を築き上げてきた逍遥園のように、これからも多くの人たちの歩みを支えている場になってほしいと願っています。

このダボロードを興で進むと、姉妹都市提携三〇周年を記念して、ダボ・リージョンから贈られたカンガルー像(ブレットモン・ガリーング作)があり、両市のつながりや絆の強さを感じることが出来ます。

## No. 03

### ダボロード

## 古井

Kobi

